

滋賀県地震被害想定調査について

前回調査の概要・経過

平成15年11月着手、17年4月公表

- ・ 想定対象地震（地震発生の可能性とその影響が大きいものとして）
琵琶湖西岸断層帯(3ヶ所)、 花折断層帯、
東南海・南海地震
- ・ 揺れ・液状化の分布推計（500mメッシュ）
- ・ 建物被害推計（倒壊棟数、火災発生件数）
- ・ 人的被害推計（建物倒壊に伴う死傷者・避難者数）

今回調査の概要・経過

平成 24 年度（9 月～）

- ・ 前回調査以降のボーリングデータを収集、浅部地盤モデルを再構築して、揺れ・液状化の分布を推計（250mメッシュ）
- ・ 想定対象地震（県域各地で起こりうる大地震として）
琵琶湖西岸断層帯、 花折断層帯、 木津川断層帯、
鈴鹿西縁断層帯、 柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯
南海トラフ巨大地震 （各2ケース）

平成 25 年度（6 月～）

- ・ 社会的データの収集（建物、ライフライン、交通施設 他）
- ・ 建物・施設被害推計（倒壊棟数、火災発生・延焼棟数、家具転倒、
ライフライン・交通施設機能障害 他）
- ・ 人的被害推計（死傷者・要救助者・避難者・孤立集落・帰宅困難者）
- ・ 災害イメージ把握（上記被害・対応状況の経時的シナリオ作成）

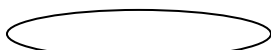
↓

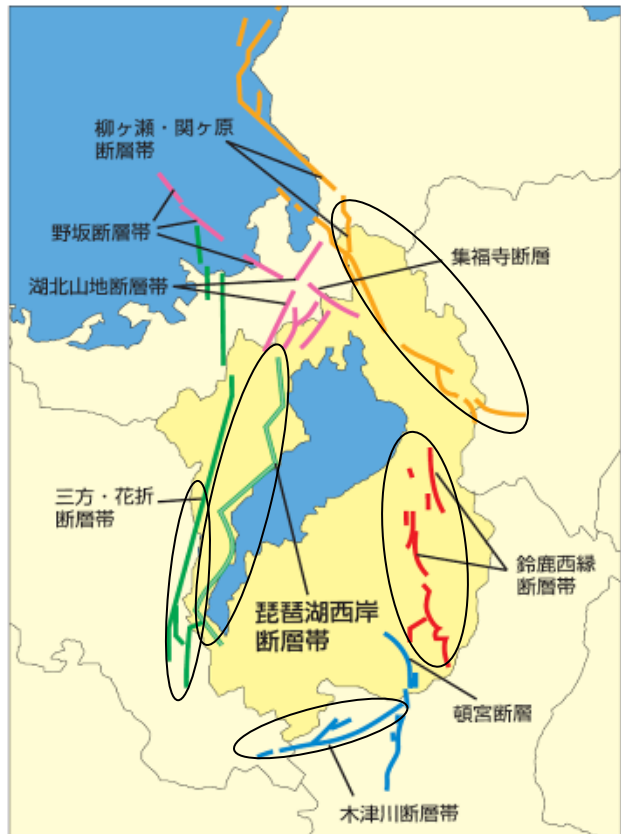
- ・ 現況防災体制における課題の抽出整理

地震防災対策の見直し
（地域防災計画に反映：各種減災対策、応急対策）

(参考)

県域の内陸活断層(帯)分布図


今回想定対象震源断層(帯)



2012年 内閣府による南海トラフ巨大地震 (内閣府公表資料より抜粋)

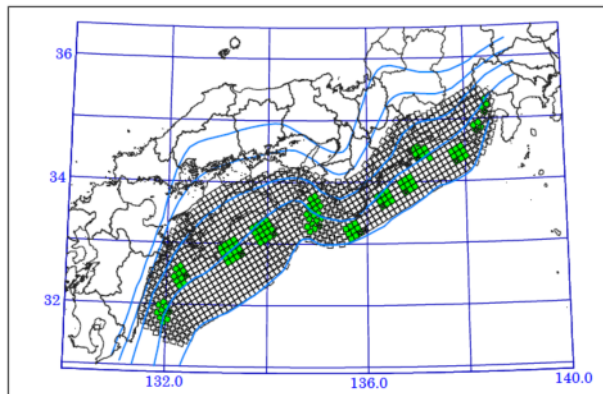


図3.3 強震動生成域の設定の検討ケース(基本ケース)

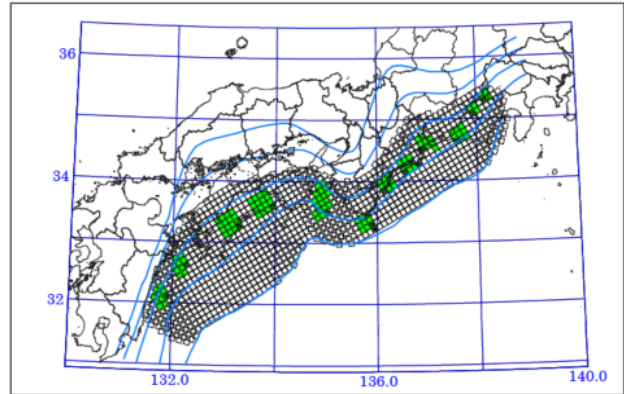


図3.6 強震動生成域の設定の検討ケース(陸側ケース)

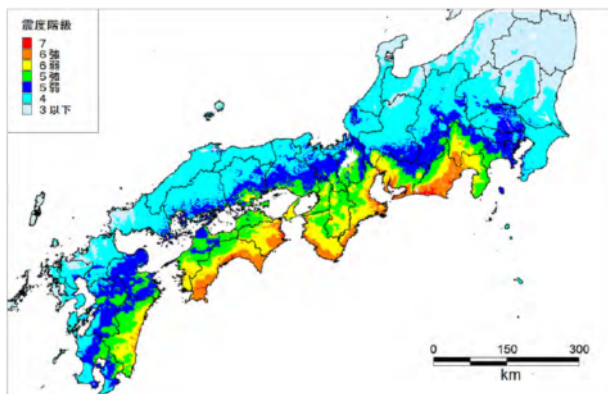


図5.1 基本ケースの震度分布

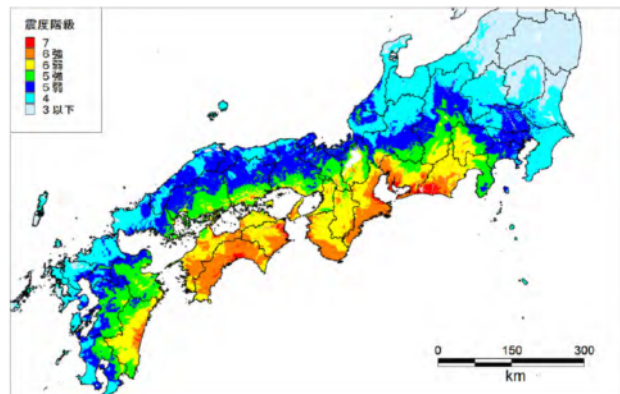


図5.4 陸側ケースの震度分布